

第3回岩の力学に関する若手研究者会議報告

愛媛大学 安原英明

1. 開催趣旨

平成 29 年 1 月 9 日（月）に、神戸市国際会議場で開催された第 3 回岩の力学に関する若手研究者会議についての報告を行う。「岩の力学に関する若手研究者会議」では、土木工学、資源工学、地質学などをバックグラウンドとして岩石力学・岩盤工学に携わる新進気鋭の若手科学者・技術者（概ね 40 歳以下の研究者）が、自らの研究を報告する場を提供している。現在、岩盤工学の分野では、解決すべき課題は複雑・大型化しており、研究者各人が実施できる研究は限界がある。そのため、異分野研究者間の連携は不可避である。そこで、今後の十分な連携が実現することを視野に入れ、国内外問わず異なるフィールドで活動している若手研究者が連携できる場を提供することが本会議の最大の目的である。今回は、平成 26、27 年に引き続き 3 回目の開催であった。

2. 会議プログラム

- 11:00－11:10 開会挨拶・趣旨説明
- 11:10－13:00 セッション I 【Company-Institute Session】
- 13:00－13:45 昼食休憩
- 13:45－15:30 セッション II 【Student Session】
- 15:30－16:00 Kazuhei バイオリンリサイタル
- 16:00－17:15 セッション III 【Professor Session】
- 17:15－17:30 閉会挨拶（集合写真撮影）

3. 会議報告および今後の予定

会議の参加者は、発表者の 19 名を含めた 41 名であった。本会議は、第 14 回岩の力学国内シンポジウム（平成 29 年 1 月 10 日～12 日）の併設行事として開催され、北は北海道から南は九州熊本まで、様々な方に真冬の神戸に参集頂いた。さらに、韓国からの招待発表者を含めて海外から 7 名の参加

者があった。今回は、企業および民間・公的研究機関から 18 名、大学教員 10 名、学生 13 名とバランス良い配分で、平均年齢は 32.8 歳であった。開会挨拶では、本会議の開催趣旨として、今後お金になる共同研究の実施と、官民間わず生産性向上が我々若手研究者・技術者の命題である旨を伝えた。一般発表では、各自が研究テーマを紹介するだけでなく、今後実施したい研究や研究協力できる内容の報告がなされ、参加者は自由な発表・討議を行っていた。さらに、一般発表の合間に今回のスペシャルプログラムとして、日本原子力研究開発機構青柳和平氏による Kazuhei バイオリンリサイタルを実施した。青柳氏は、葉加瀬太郎「情熱大陸のテーマ」など、我々素人にも理解できるポピュラーな曲を 5 曲演奏した。玄人はだしの演奏で会場は拍手喝采であった。なお、会議の詳細については、J-FIRMS ウェブサイト (<http://www.cce.chime-u.ac.jp/~rock/jfirms.html>) を参照されたい。最後に、本会議開催にあたり岩の力学連合会から資金援助を戴いた。末筆ながら御礼申し上げる。戴いた援助金と参加者からの参加費は、会議の運営に使用させて頂いた。アジアの若手研究者・技術者とのネットワーク強化の一環として、今回韓国から参加者を募り、結果として 5 名の参加があった。次年度は、更なるネットワーク強化の方策を実施する予定である。



写真 会議の様子（上）、参加者による記念撮影（下）